



高齢者の生きがい支援活動として 老人施設等でぱちんこイベントを実施

岐阜県遊技業協同組合 「『楽しむこといつまでも』 あいぱちプロジェクト」事業



岐阜県遊技業協同組合
理事長
大野春光さん



あいぱちプロジェクトの活動を伝えるポスター

脳機能の活性化にも役立つパチンコを 老人施設で楽しんでもらう

高齢者の認知症の増加が大きな社会問題となっている。わが国の認知症高齢者の数は、2012年で462万人と推計されており、2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれている。認知症は、様々な病気や加齢により脳の働きが低下して起こる一連の症状をさす言葉だが、機能が低下した脳を活性化させるには、適切な刺激を与えることが有効だとされている。それも一種類ではなく、いくつかの異なる刺激を同時に与えるほうがより効果的だと言われている。

ハンドルをコントロールすることによる手からの刺激、玉を目で追う行為や液晶盤や電飾による目からの刺激、玉が流れる音やゲームの効果音による耳からの刺激という複合的な刺激に加え、何よりもやっつけて楽しいことから、認知症に対するパチンコのリハビリ効果を指摘する医師もいる。

こうした効果にも着目し、パチンコ台を特別養護老人ホームや老人介護施設などの老人福祉施設に設置し、入所する高齢者の方々に一日楽しんでもらうことを目的として活動する団体「あいぱちプロジェクト」を資金面などで支援しているのが岐阜県遊技業協同組合である。

2008年に岐阜支部の社会貢献事業としてスタートしたが、翌年から事業規模を拡大し、現在は岐遊協の社会貢献事業として定着し、11年間で岐阜県内の延べ748カ所の老人施設等で実施されている。



老人介護施設にパチンコ台を持ち込み実施



イベント後にお菓子等も提供

年間300万円の予算を計上して 延べ70カ所程度の老人施設で実施

あいぱちプロジェクトのスタッフが来所依頼のあった施設に5台程度のパチンコ台を持ち込み、音響設備とともに施設のスタッフの協力を得ながら設置し、一人当たり15分程度遊技してもらうものだが、大当たりを多めにだし、その景品として、一般財団法人岐阜社会福祉事業協力会の協力の下、端玉景品の菓子類を提供して楽しんでもらうことになっている。

岐阜県内の老人介護施設などでは、入所者が自ら参加して楽しめるイベントが少ないため、施設側から来所を希望する声が多く届けられ好評だという。そのため、主催する岐遊協と岐阜支部では年々、予算規模を拡大し、現在は年間300万円の予算を計上している。形の上ではあいぱちプロジェクトへの委託事業として実施されているが、訪問予定表をその都度、岐遊協に報告してもらい、了承を得た上で実施してもらうことになっている。また、イベント開催にあたっては、岐遊協専務理事、各支部組合の長が出席し、実施状況の把握に努めている。

1回につき3時間程度のイベントだが、2015年からは手の不自由な方々にも楽しんでもらえるよう、足踏み型のパチンコ台も導入し、改善を重ねながら事業を継続している。1施設当たり、平均すると50～100人ほどの入所者が参加しているということで、年間延べ70～90カ所で開催し、2018年度は72カ所の老人福祉施設、3カ所の障がい者施設を訪問したという。イベント実施後、参加者からは、「久しぶりにパチンコを楽しんだ」、「活気があって楽しかった」、「景品までいただいてありがとうございました」などの声が多く寄せられるという。

岐遊協では、この事業をパチンコで高齢者の生きがいを支援する活動と位置づけ、今後も継続していく予定だという。